

一九八六年出土の木簡

概要

各発掘調査機関および各発掘担当者の御協力により、本号には五〇件の報告を掲載することができた。昨年度大会で、一九八六年木簡出土遺跡として報告されたもののほぼ全てを収録することができた。関係各位に感謝を申しあげる次第である。

木簡出土遺跡および出土点数等の内訳は別表のとおりである。時代的には、八世紀初めの古代から、近世の江戸時代の各時代におよんでおり、遺跡の性格としても、古代都城、官衙、寺院から、中世の集落、城郭、また近世の都市など、多種多様な内容を含んでいる。遺跡については、従来より、多数の木簡出土を継続的にみている藤原・平城・長岡・平安などの宮都や、大宰府・草戸千軒町遺跡などがひきつづいて出土をみ、それぞれの遺跡に関わる関連資料の増加と新資料の追加がより豊かな研究につながるであろう。また出土都道府県につき、従来木簡の出土がみられなかった東京、千葉、徳島が加わり、木簡新出遺跡が、二六件もみられることは、今後とも発

掘調査による木簡出土への期待度を増すものである。

木簡の内容について概観すると、古代木簡では、藤原・平城・長岡京などで多数の木簡の出土をみている。

藤原京では、最古の部類に属する呪符木簡が出土しているのが注目され、葉採司・左京職の官司名のみえる木簡もある。呪符木簡はこれ一点のみ井戸から出土しており、伴出した「香山」と墨書のある多数の土器の出土とともに、呪術関係の資料として興味がもたれる。

平城宮跡では、八六年には多数の木簡が出土した。内裏・大極殿院・第二次朝堂院地区の東方を南流する、宮城東半部の基幹排水路であるいわゆる東大溝を約一二〇mの長さにとわたって発掘調査した結果、四五七七点にもおよぶ木簡が出土した。一調査地での出土点数では、平城宮跡第三二次補足調査（本号「一九七七年以前出土の木簡」項参照）につぐものである。時代的には、奈良時代初めから平安時代初めまで存続していた水路である関係上、一括資料というよりは、奈良時代全般にわたる多様な内容のものが出土している。造営関係では、造宮省・造東院所・造五丈殿所・造兵司などの官司名等がみえる。また門籍とみえるのをはじめ門関係のものも数点みられる。また付札類では、地名表記に従来しられなかった駅名を示すものがみられ、賛関係では、従来三河湾上の篠嶋・析嶋からの賛貢進を示す木簡の存在はしられていたが、今一つ湾上に浮ぶ日間賀島（比真嶋）からの賛貢進付札はその例をみなかったところ、今回そこ

からも贗貢進がなされていたことがわかった。貢進物付札で専当官の署名をもつものは、今までその出土例も少なかったが、今回その例を加えることになった。

また佐紀池南辺調査では、一風変わった呪符木簡が出土している。その用法等は不明であるが、藤原京のそれとともに古い部類の呪符木簡である。この調査区でも前述の比莫嶋贗木簡が一点出土した。

長岡京では、『長岡京木簡 一』として刊行されたうちに収載され、詳細な分析・研究がなされたものと一連の木簡が多数出土している。左京二条二坊六町における太政官厨家の存在や、さらに地子米検収にあたる過程の究明がなされたことは、木簡の遺構との関連性において、さらに木簡の機能と用途につき、地子米の例をとおして、その一端が明らかになったことは心強いことであったが、さらに木簡のセットとしての使用法なども想定されており、木簡の用法の具体相の究明により近づきつつあるといえよう。水路改修の立会調査での二㎡余の狭い範囲の溝中から約四四〇点もの出土をみている。発掘調査のおもしろさとおそろしさを物語っていよう。

大阪・安堂遺跡からは、天平一八年の若狭調塩貢進付札、近江国の貢進物付札、また福井・田名遺跡からは若狭三方郡付札が出土している。宮都の遺跡以外でこのように貢進物付札が出土したことは興味深い。貢進物付札は地方の官衙で主として書かれたであろうが、その荷札が、かつて滋賀・鴨遺跡で出土したのと同じように、

運搬ルート沿いで出土したり、また離宮かと思われる消費地で発見されたりしていることは、貢進物付札の使い方を示唆しており注目される。

中・近世については、やはり例年のごとく、写経、呪符、塔婆、柿経関係の出土が目につく。

地蔵菩薩本願經などを写した興福寺賤院の井戸出土の柿経、法華經を写した柿経が出土した滋賀・浄琳寺遺跡など鎌倉時代のもや、また室町時代のものでやはり法華經を書写した福岡・井相田C遺跡の池出土の柿経など、大量の出土をみている柿経は、その民俗資料として価値のあるものであろう。なお柿経はその性格上厚みが大変薄いものであるので、その保管・保存の方法については十分注意する必要がある。なお大般若經転読札（兵庫・初田館跡）もその用法に興味がもたれる。

塔婆も各種のものがみられる。板状のものや、笹塔婆などがあり、宗派も浄土宗などさまざまである。呪符木簡は、前述のとおり奈良時代初めのものが、藤原・平城京で出土しているが、古代・中世のものも各地遺跡で井戸等から出土をみ、当時の精神生活の具体的なあり方を考える上で貴重な資料となろう。

近世に入ると、都市生活を物語る木簡が注目される。前大会で報告をいただいた大坂城跡出土の魚類などの付札は多量出土をみ、文献資料とのかかわりで、近世初頭の大坂の魚市場の位置を比定し

木簡出土遺跡一覧

遺 跡 名	所 在 地	点 数	木簡の年代	遺跡の性格
平城宮・京跡	奈良県奈良市	4974	古 代	都 城
{ 平城宮跡 東大溝地区		4577		
佐紀池南辺		279		
{ 平城京跡 左京三条二		114		
坊七坪				
その他		4		
※ 興福寺旧境内	〃	290	中 世	寺 院
藤原京跡(左京六条三坊)	奈良県橿原市	26	古 代	都 城
和田廃寺	〃	2	〃	都城・寺院
※ 橘寺	奈良県明日香村	9	〃	寺 院
※ 曲川遺跡	〃	3	〃	集 落
長岡京跡(1)	京都府向日市	約 458	〃	都 城
{ 左京二条二坊六町		約440		
その他		18		
〃 (2)	〃	1	〃	〃
〃 (3)	京都市伏見区	5	〃	〃
〃 (4)	京都府長岡京市	2	〃	〃
平安京 右京三条二坊八	京都市中京区	1	〃	〃
町				
〃 右京五条一坊三	〃	1	近 世	都 市
町				
〃 右京五条一坊六	〃	1	古 代	都 城
町				
〃 右京八条二坊二	京都市下京区	1	〃	〃
町				
〃 右京八条二坊十	〃	1	〃	〃
二町				
伏見城跡	京都市伏見区	5	近 世	城 郭
大坂城跡	大阪市東区	314	〃	城郭・都市
※ 安堂遺跡	大阪府柏原市	6	古 代	集 落
※ 津田トッパナ遺跡	大阪府枚方市	1	中 世	〃
※○萱振A遺跡	大阪府八尾市	1	〃	〃
※ 弥布ヶ森遺跡	兵庫県日高町	1	古 代	官 衙
但馬国府推定地	〃	30	〃	〃
※ 初田館跡	兵庫県丹南町	5	中 世	居 館
※○福田片岡遺跡	兵庫県竜野市	2	〃	集落・居館
清洲城下町遺跡(1)	愛知県清洲町	2	近 世	城郭・都市
〃 (2)	〃	3	〃	〃
※ 居倉遺跡	静岡県島田市	5	古 代	居 館
※○土橋遺跡	静岡県袋井市	15	近 世	集 落
駿府城三の丸跡	静岡県静岡市	5	中 世	〃
※ 東京大学構内遺跡	東京都文京区	13	近 世	屋 敷
※ 浜野川遺跡	千葉県千葉市	1	中 世	包 含 層
※ 神照寺坊遺跡	滋賀県長浜市	1	古 代	寺 院
※ 浄琳寺遺跡	〃	1870	中・近 世	寺院・墓地
※ 光相寺遺跡	滋賀県中主町	2	古 代	集 落

※ 吉地薬師堂遺跡	滋賀県中主町	6	中	世	集	落
胆沢城跡	岩手県水沢市	4	古	代	城柵・官衙	
※○根城跡	青森県八戸市	1	近	世	城	郭
※○生石2遺跡	山形県酒田市	1	古	代	官衙・集	落
※○新青渡遺跡	〃	1	〃		集	落
弘田柵跡	秋田県仙北町・千畑町	4	〃		城柵・官衙	
※ 田名遺跡	福井県三方町	3	〃		集	落
※○曾万布遺跡	福井県福井市	1	中	世	〃	
※ 辻遺跡	富山県立山町	9	〃		〃	
※○富田川河床遺跡	島根県広瀬町	1	近	世	集	落
草戸千軒町遺跡	広島県福山市	14	中	世	〃	
周防国府跡	山口県防府市	1	古	代	官	衙
※ 中島田遺跡	徳島県徳島市	5	中	代	集	落
大宰府跡	福岡県太宰府市	13	古	代	官	衙
※ 井相田C遺跡	福岡市博多区	約1500	中	世	集	落
※ 吉野ヶ里遺跡	佐賀県神埼町	1	古	代	官衙・集	落

※は木簡新出遺跡 ○は1985年以前出土遺跡

えたのは貴重である。

木簡も時代的には古代から近世の末頃まで、また形態・機能も時代的拡がりとともに多様になっていく。全般的には、平安時代初めまでの有様と、それ以後とは、木簡の形態・用途・機能等の側面でやはり相違がみられるようになる。また中世も室町時代に入るとさらに様相が異なる。出土する文字資料として貴重なこれら木簡を、各時代の特色を十分把握しつつ、活用していかなければならないであろう。

(綾村 宏)